

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370797

研究課題名(和文) 地域社会と戦後学生運動 -九州大学を中心に-

研究課題名(英文) Regional Community and the Postwar Student Movements-With a focus on Kyushu University-

研究代表者

折田 悦郎 (ORITA, ETUROU)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：10177305

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：国立の個別大学における学生運動の研究は、概説的叙述がなされる各大学の『年史』以外では殆ど行われてこなかった。そこには残存史料の問題が大きく関係しているが、現在の大学をめぐる状況を考えると、大学に多大な影響を与えた学生運動の研究は必須である。幸い九州大学では従来から大学図書館で関係史料の収集を行っており、九大に関する歴史研究の蓄積も集約されている。本研究は新出史料や新たな証言を利用して行う共同研究であるが、その成果は後述する各年度の報告書(冊子体)3冊にまとめた。ここでは終戦後～60年安保、そしていわゆる紛争期の学生運動について、米軍機墜落事件など、九大独自の問題に注目して叙述を行った。

研究成果の概要(英文)：Few studies have focused on student movements in each national university except that they were roughly written in "year history" of the university. This is related to a problem of extant historical materials. However, in view of present circumstance surrounding universities, it is essential to research on the student movements which had a huge influence over the universities. Fortunately, Kyushu University Archives has been gathering related historical materials and accumulating the results of historical researches about Kyushu University. This study is a collaborative research by using new historical materials and new verbal evidences, and the study result appears in following each annual report. In the reports, focusing on Kyushu University's own matters such as F4 Phantom crash in 1968, we described the postwar student movements, the campaign against the Japan-U.S. Security Treaty in 1960 and so-called student activism in the campus conflict period.

研究分野：人文学

キーワード：九州大学 九大紛争 戦後学生運動

1. 研究開始当初の背景

九州大学(以下、九大)は創立時から地域との関係が極めて密接な大学であった。帝国大学時代にできた5つの学部のうち、純粋に国費だけで創設されたのは法文学部(戦後に法、経、文の3学部に分立)のみである。九大は大学の創設自体が、地域の協力(誘致・設置運動)無しには存在しえない学校だった。そして、このような地域社会との緊密な関係は、学生運動の場合でも同様である。1950年6月に勃発した朝鮮戦争下、朝鮮半島に近い福岡市や旧軍都の久留米市に置かれた九大の三つの分校(教養部)で起こった激しい反戦運動、高度経済成長期を目前に60年安保と並行してなされた三池闘争、1968年6月の米軍機ファントム墜落と米軍板付基地撤去運動は、いずれも地域・市民と学生・大学との連携で行われた。これらの具体的な様子は、各時期の新聞に詳述されている。例えば、三池闘争の理論的指導者は経済学部の向坂逸郎で、主宰した社会主義協会には多くの九大関係者がいた。また、米軍機墜落事件前後の新聞には、福岡での反基地運動の様子を知ることができる。

九大大学図書館の前身である九大75年史編集室は、1992年3月、『九州大学七十五年史 通史』を刊行し、全708頁中の140頁をいわゆる「九大紛争」に充てた。そこでは、1968年1月の佐世保への米軍空母エンタープライズ入港阻止、同年6月2日の九大構内での米軍機ファントム墜落・炎上事件、同機体引き降ろし問題、文部省による井上正治法学部長の九大総長任命拒否問題、大学管理法反対運動からキャンパス封鎖・機動隊導入に至る経緯等が詳述されている。近年の小熊英二『1968』のように、慶大、早大、日大、東大の紛争、ベ平連、連合赤軍を扱った力作も現れているが、しかし、学内、学外の史料を突き合わせ、かつ上に述べたように戦後を通じて独自の展開をした地方大学の学生運動と地域社会の関係に焦点を当てた研究は多くない。

現在、大学紛争と関係の深かった団塊の世代が現役のリタイアを迎えている。そして敗戦後の学生運動はもちろん、60年安保を体験した人達も少なくなった。また、ファントム墜落を報じた『ニューヨークタイムズ』の記事や、米国国立公文書館の国務省関係史料の存在も最近明らかになった。謎とされていたファントム引き降ろしの様子も九大関係者の証言で判明し、75年史編集時に歴代総長や文部省関係者に聞き取りをしたテープも公開解禁の時期を迎えた。ヒアリングを始めとする学生運動関係史料を収集しなければ、その多くは散逸してしまうだろう。時代背景的にも、また時間的にも、今が史料を収集する最後のチャンスである。

2. 研究の目的

九大大学図書館は、2001年から4年間に

わたり『九大広報』特集号の「さようなら九州大学」を『停年退職予定教官特別寄稿』としてまとめ、復刻した。そこにはいまだに「紛争」への感慨が綴られるが、ただ、現在の一般的な関心からすれば、大学紛争の占める地位は急速に小さくなっている。マスコミで大学紛争と言えば、「東大安田講堂攻防戦」と「日大闘争」であり、それは「あさま山荘事件」で終息したとされる。しかし、このような見方は正しいのだろうか。学生運動は、時代的にも地域的にも一様ではなかった。それは学内問題だけではなく、地域社会の諸問題とも相互に影響し合いながら展開された。本研究は、九大の学生運動について新出史料・新証言も用いて行う共同研究である。

ところで、九大では2005年4月、従来の大学史料室を大学図書館に改組し、2009年4月には館内に百年史編集室を設置した。ここでは75年史編集室・大学史料室の史料を受け継ぎ、同時に学務部、各学部事務部から多くの文書を受け入れた。今回の研究参加者は、全員が図書館・百年史編集室の専任・兼任教員であるが、『九大七十五年史』が大学紛争期と学内事情に焦点を絞ったのに対し、戦後九大史を通して地域社会との関係から学生運動を位置付け直すべきとの共通認識を持つようになった。本研究はこのような認識に基づき、戦後九大での学生運動を考察するが、その際、研究参加者の専門分野等を考慮して、以下の点に留意しながら研究を進めることにした。

(1) 九大史における時期区分・時代背景に注目して研究を進めること。既述のように、戦後期の九大の学生運動は、終戦直後から新制大学期におけるもの、60年安保期、70年安保を挟む九大紛争期、それ以降の時期、にわたって行われた。の時期は、49年5月に新制大学が発足、教養部(分校)が設置されたところから本格化した。新制九大の三つの分校で朝鮮戦争への反戦運動等が行われたが、この時期は日本共産党の影響力が強く、同党が所感派と国際派に分かれた時には国際派の中心校となった。の時期は、九大生が「九学連」や全学連中央の執行部に入るとともに、三池闘争と連携した運動が行われた。の時期は、これも上述のように全国的な紛争と連動しつつも、ファントムをめぐる独自の展開がなされ、の時期も九大は独特だった。それは、九大紛争が77年11月まで続き機動隊導入がなされたことに象徴的である。

(2) 大学図書館には、移管文書や年史編集に用いた諸議事録、ビラ、学内外の各新聞等、大量の史料がある。本研究では、各時期の実態把握のために同館所蔵史料の調査、学内文書の所在調査を行った。

(3) 大学図書館では、これまでもヒアリングやオーラルヒストリーを利用した研究を行ってきた。これらに追加した関係者への調査を行った。

(4) 地域社会と大学との関係に注目する本研究では、写真、映像史料も貴重である。特に両安保運動期以後のものは、大学文書館、各マスコミに多くの史料が残されている。写真・映像史料の調査・研究も行った。

以上のような点に留意しながら調査・分析を進め、下記のような特色を持つ研究を目指した。

(1) 『年史』以外では組織的に検討されることのなかった九大の学生運動 例え板付基地撤去運動 など、地域という視点から見通すことで、九大自体はもちろん、現在編纂中の『福岡市史』等、地域史研究にも貢献すること。

(2) 学内外の関係史料の調査により、新たな史料の発掘を目指すと同時に、ヒアリング調査の証言等から、これまで知られていなかった事実を明らかにすること。

(3) 現在の大学をめぐる状況には大変に厳しいものがある。そして多くの大学では「改革」を余儀なくされている。今回の研究は、これらの動向に直接役立つものではないが、廃校を前提とした「大管法」が制定されたとき、「外圧」という点ではどこか似ている。このような点から見て、本研究の成果が大学の現状を考える基礎資料にもなるようにすること。

(4) 現在、いくつかの大学では大学アーカイブズが置かれ、多くの文書を収集している。本研究では大学アーカイブズの研究機能に関する事例も提供できるようにすること。

3. 研究の方法

本研究では九大大学文書館のこれまでの研究の蓄積と所蔵文書を活用する方向で、「研究計画」を立てた。具体的には、大学法人文書の調査・研究、文献・雑誌・新聞史料等の調査・研究、「ヒアリング」(聞き取り)や「オーラル・ヒストリー」の実施(調査・研究)の3つであるが、実際には研究分担者を4グループに分けて共同研究を行った。

以下、4グループの担当課題を記しておけば、第1グループは、九大における戦後初期、新制大学発足前後の学生運動の調査・研究。特に大学文書館が所蔵する旧教養部(分校)関係文書の調査・研究。第2グループは、九大におけるいわゆる60年安保闘争期の学生運動の調査・研究。第3グループは、九大における70年安保闘争前後の学生運動の調査・研究。いわゆる九大紛争は、従前の学生運動とは異なり極めて過激な形で展開された。また、前述したエンタープライズ入港阻止やファントム墜落・炎上事件という独自の問題もあって、地元のみならず社会全体の耳目を集めた運動であった。全国的には大学紛争が下火になった以後の九大での運動や、その後の大学「改革」に繋がる活動(例えば、九大では紛争中に事務局本部内に「九大大学資料室」を設置<1969~81年>、助手が配置され

て、大学「改革」関係史料の収集・整理が行われた)や、大学文書館が所蔵する学内文書、新聞スクラップ、ピラ、75年史編集時代のヒアリング史料(10本以上のテープがあり、前述のようにほとんどが非公開期限が解除された)、映像史料(20時間以上の8ミリフィルム)等の調査を行った。第4グループは全体会の意味を持ち、分担者以外の研究協力者等のとりまとめ等を行った。

4. 研究成果

個別の成果については「5. 主な発表論文等」に記すので、ここでは年度別にいくつかの成果について説明しておきたい。先ず初年度は『聞き取り「九大紛争」 教官・学生の証言』(全248頁)を刊行、関係者への聞き取り調査と、「座談会」の史料を収めた。

はいずれも九大「紛争」期に大学の要職を務めた人達の証言であり、今から30年前の1987年2月13日~3月25日にかけての記録である。九大75年史編集室に勤務していた柴多一雄氏(当時講師。現長崎大学経済学部教授。本研究の協力者)と折田(当時助手。研究代表者)が聞き手となり、ヒアリングを行った。今となっては、簡単には入手し難い貴重な生の声である。は2009年2月7日に九大大学文書館で行った「九大学生運動史」を語る「座談会」(折田を始め、9名が出席)の史料である。また、初年度は折田が「九州大学における大学アーカイブズの歴史・現状・課題」(全史料協福岡大会)と「大学の存在意義を問う 大学と地域社会の関係から」(大学史研究会シンポジウム)の2報告を行ったほか、九大教養部関係史料の目録を作成、ホームページにアップした。

次に第2年度は海外史料についての調査を行うことにし、米国国立公文書館の所蔵する、1968年6月2日の九大構内への「米軍機墜落事故」に関する文書(Record Group 59 Entry (A1) 1613 General Records of the Department of State. Subject-Numeric Central Policy Files, 1967-1969, Boxes 1562-1563, Files "DEF 15 Japan-US", "DEF) 17Japan-US")のうち、特に大学と地域にとって重要と思われる16通を選んで、報告書『「九大紛争」資料集 年表・米国国立公文書館所蔵資料等』(全114頁)に訳出した。また同報告書には「基地と大学 九州大学はうったえる」も所収したが、これは米軍基地を抱えた「大学(地域)」と「基地」の問題を考えるとときの基礎史料である。その他の報告では、折田が「大学史における記録資料研究の重要性と今後の可能性」(科研シンポジウム兼博物館セミナー、2016.3.28、於九大)、「戦後70年」と大学史資料」(全国大学史資料協議会2015年度全国研究会、2015.10.8、於東北学院大学)で大学アーカイブズの重要性とともに、「地域」と「大学」、「学生運動」にも関説した報告を行った。

第3年度は報告書『地域社会と戦後学生運

動 九州大学を中心に『(全310頁)を刊行、官田光史「九州大学における戦後学生運動」と、折田他編「吉本清一氏関係資料(九州大学セツルメント関係)目録」等を収めた。は戦後九大の学生運動から60年安保、紛争期を経て、その後の様子までを詳述する。一方、は従来の反体制的な学生運動ではなく、診療活動などを通じて地域社会の改良を目指す、学生の社会運動=九大セツルメントに関わる論稿で、本研究の課題であった地域と学生運動を考える際の格好の素材である。また、同じく最終報告書の「米軍機墜落事件経過概要・学生問題に関する経過概要」は、九大紛争に関する学内外の動きを時系列的に収集、大学当局が作成した文書として貴重なものである。そのほか折田「<地域社会と九大戦後学生運動>研究における資料収集から」(地域社会と戦後学生運動(科研)・地域ベ平連研究会共催シンポジウム、於九大、2016年5月28日)が、前掲の「聞き取り」調査や外交文書を用いて、九大紛争についての新しい知見を指摘した。また本共同研究中に、60年安保から九大紛争期にかけて学内外で活発な運動を行い、1969年の全学封鎖解除にも決定的な役割を果たした奥田八二九大教授(後の福岡県知事)の関係史料が九大大学文書館に寄贈され、この史料研究のための「奥田八二日記研究会」が大学文書館内に組織された。篠原新「奥田八二氏資料仮目録」(電子版)は、その奥田関係史料の目録である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

官田光史、「九州大学における戦後学生運動」、『地域社会と戦後学生運動 - 九州大学を中心に -』、九州大学大学文書館、査読無、2017、1頁~110頁

赤司友徳、「吉本清一氏関係資料(九州大学セツルメント関係)解題」、『地域社会と戦後学生運動 - 九州大学を中心に -』、九州大学大学文書館、査読無、2017、235頁~241頁

赤司友徳、「九州大学セツルメントと吉本清一氏資料」、『九州大学大学文書館ニュース』、第40号、査読無、2017、5頁~7頁

折田悦郎、「「戦後70年」と大学史資料 - 九州帝国大学の学徒出陣 - 」、『研究叢書』第17号(全国大学史資料協議会)、査読無、2016、40頁~72頁

折田悦郎、山本尚史他、「「戦後70年」と大学史」、『研究叢書』第17号(全国大学史資料協議会)、査読無、2016、95頁~121頁

折田悦郎、「九州大学大学文書館について」、『全国大学史資料協議会 西日本部会 25周年記念誌』、京都大学学術出版会、査読

無、2015、58頁~59頁

[学会発表](計6件)

折田悦郎、「<地域社会と九大戦後学生運動>研究における資料収集から」、地域社会と戦後学生運動(科研)・地域ベ平連研究会共催シンポジウム、2016.5.28、於:九州大学(福岡県福岡市)

折田悦郎、「大学史における記録資料研究の重要性と今後の可能性」、科研シンポジウム兼博物館セミナー、2016.3.28、於:九州大学(福岡県福岡市)

折田悦郎、「「戦後70年」と大学資料 - 九州帝国大学の学徒出陣 - 」、全国大学史資料協議会 2015年度全国研究会、2015.10.8、於:東北学院大学(宮城県仙台市)

折田悦郎、トークイベント:「九大1968 - 撮影者 林崎价男氏を囲んで」、2015.2.3、於:九州大学附属図書館(福岡県福岡市)

折田悦郎、コメンテーター:シンポジウム「大学の存在意義を問う - 大学と地域社会の関係から - 」、大学史研究セミナー「公開シンポジウム」、2014.11.29、於:九州大学(福岡県福岡市)

折田悦郎、「九州大学における大学アーカイブズの歴史・現状・課題」、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国(福岡)大会、2014.11.14、於:九州大学(福岡県福岡市)

[図書](計12件)

折田悦郎、藤岡健太郎、赤司友徳、中村江里他編、『地域社会と戦後学生運動 - 九州大学を中心に - 』、科学研究費補助金基盤研究(C)第3年度(平成28年度)報告書、九州大学大学文書館、2017、310頁

官田光史、『九州大学百年史』第2巻通史編 (WEB公開版)、九州大学百年史編集委員会、2017

折田悦郎、藤岡健太郎、井上美香子編、『九州大学大学資料叢書』第23輯、「学内めぐり - 九大学報特別号 - 」二、九州大学大学文書館、2017、305頁

折田悦郎、篠原新、山田良介編、『岩崎隆次郎 元福岡県労働組合評議会事務局長聞き取り記録』、九州大学大学文書館、2016、77頁

井手麻衣子、赤司友徳、折田悦郎編、『児玉和彦氏寄贈資料目録』、九州大学大学文書館、2016、31頁

折田悦郎、藤岡健太郎、井上美香子編、『九州大学大学史料叢書』第22輯、「学内めぐり - 九大学報特別号 - 」一、九州大学大学文書館、2016、243頁

折田悦郎、藤岡健太郎他編、『「九大紛争」資料集 - 年表・米国国立公文書館所蔵資料等 - 』、科学研究費補助金基盤研究(C)第2年度(平成27年度)報告書、九州大学大学文書館、2016、114頁

川本光治、折田悦郎、中村江里他、「九州大学学生運動関係年表」、『「九大紛争」資料

集 - 年表・米国国立公文書館所蔵資料等 - 』
九州大学大学文書館、2016、43 頁 ~ 86 頁
折田悦郎、柳町茂一、中村江里他、「米国
国立公文書館所蔵資料」、『「九大紛争」資料
集 - 年表・米国国立公文書館所蔵資料等 - 』
九州大学大学文書館、2016、1 頁 ~ 41 頁
折田悦郎、藤岡健太郎、井上美香子編、『九
州大学大学史料叢書』第 21 輯、「九州大学
新聞記事索引 三」、九州大学大学文書館、
2015、145 頁
折田悦郎、藤岡健太郎、柴多一雄、山本尚
史編、『聞き取り「九大紛争」- 教官・学生
の証言 - 』、科学研究費補助金基盤研究(C)
第 1 年度(平成 26 年度)報告書、九州大学大
学文書館、2015、248 頁
折田悦郎、中村江里他、特定歴史公文書「旧
教養部関係資料」(データベース)、九州大
学大学文書館、2014

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
「旧教養部関係資料」(データベース)
[http://www.arc.kyushu-u.ac.jp/attachmen
t/historical_document/pdfs/26/original/
%E6%97%A7%E6%95%99%E9%A4%8A%E9%83%A8%E9
%96%A2%E4%BF%82%E5%8F%B2%E6%96%99.pdf](http://www.arc.kyushu-u.ac.jp/attachmen t/historical_document/pdfs/26/original/ %E6%97%A7%E6%95%99%E9%A4%8A%E9%83%A8%E9 %96%A2%E4%BF%82%E5%8F%B2%E6%96%99.pdf)
『九州大学新聞記事索引』(『九州大学大学史
料叢書』21 輯)
[http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/re
cordID/1498310?hit=2&caller=xc-search](http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/re cordID/1498310?hit=2&caller=xc-search)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

折田 悦郎 (ORITA, Eturo)
九州大学・大学院人文科学研究院/大学文
書館・教授
研究者番号：1077305

(2) 研究分担者

藤岡 健太郎 (FUJIOKA, Kentaro)
九州大学・百年史編集室・准教授
研究者番号：0042357

新谷 泰明 (SHINYA, Yasuaki)
西南女学院大学保健福祉学部・教授
研究者番号：10154402

井上 美香子 (INOUE, Mikako)
九州大学・百年史編集室・助授
研究者番号：30567326

官田 光史 (KANDA, Akifumi)
九州大学・百年史編集室・助授
研究者番号：30768619

篠原 新 (SHINOHARA, Hajime)
岐阜大学・教育推進・学生支援機構・准教
授
研究者番号：80608927

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

(4) 研究協力者

福留 久大 (FUKUDOME, Hisao)
柴多 一雄 (SHIBATA, Kazuo)
中村 江里 (NAKAMURA, Eri)
赤司 友徳 (AKASI, Tomonori)
柳町 茂一 (YANAGIMACHI, Shigeichi)
井手 麻衣子 (IDE, Maiko)
伊東 かおり (ITOU, Kaori)
山本 尚史 (YAMAMOTO, Hisasi)
小林 篤正 (KOBAYASI, Atumasa)
韓 相一 (HAN, Saniru)